

# 京の生きものの生息調査 手引書



## 第5弾 春を告げる鳥「ウグイス」を探そう！

この調査は、市民の皆さんに身近な生きものの生息状況を調査してもらうことで、京都市の自然の”いま”を知り、環境を守る取組につなげるものです。

今回の調査対象は「ウグイス」。この手引書では、ウグイスの暮らしや見つけ方などを紹介しています。

生きものの暮らしを見つめてみると、京都の自然の姿が見えてきます。

さあ、生きものを探しに出かけてみましょう！

## ウグイスの暮らしや見つけ方



ウグイスは、雄はスズメほどの大きさで、背の色はいわゆるうぐいす色、尾はスズメより長めです。雌は雄よりやや小さいです。

夏の間、繁殖地の**山里や山間部**で過ごしたウグイスは、秋に入る頃から**平地の緑地や林**に移動して冬を過ごします。この頃は地鳴き又は笹鳴きと言われる鳴き方で、「**チャッチャッチャッ**」と鳴きます。

春早い頃から、「**ホーホケキョ**」と特徴のある声でさえずり始め、再び山地へ移動していきます。

ウグイスの色々な鳴き声は [こちら→](#)

(アクセス先：認定NPO法人バードリサーチ さえずりナビ)



### 【ウグイスを調査してわかること】

ウグイスがどこにいるかを調査することで、ウグイスの生息環境である低木の林地や生け垣など市内の緑地の広がりが分かります。

また、さえずりを聞くことで、季節の移ろいを感じることができます。



## 私たちの暮らしとウグイス



- 「ウグイス餅」。青大豆のきな粉をまぶした和菓子です。春ならではの和菓子で、食べると気持ちもほっこりしますね。
- 取合せが良いことの例えとして「梅に鶯」と言います。花札の図柄でよく見かけるのではないのでしょうか。でも、梅の蜜を吸いに集まってくるのはメジロなのです。メジロとウグイスを取り違えたことから詩歌や絵画では「梅に鶯」が定番となってしまいましたが、日本の文化としては、「梅に鶯」は違和感がありません。
- 二十四節気を細分化した七十二候に「黄鶯睨皖（うぐいすなく）」という表現があり、2月9日～12日頃を指します。七十二候は、自然現象や生きものの行動を表すものが多く、調べてみると楽しく興味深いです！

### ウグイスと間違えられやすい鳥、メジロ

この鳥はメジロです！  
その名のとおり、目の周りの白い輪（アイリング）がウグイスとの相違点です。背の色は鮮やかな黄緑色です。

春先に見掛けることが多く、ウグイスのメスと大きさにそれほどの差がないため長い間ウグイスと間違えられてきた鳥です。

